

さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。



小井土さんが好きな作曲家は、ショパンやドビュッシーなど。昨年、クラシック音楽家を目指す学生の登竜門である、第67回全日本音楽コンクール東京大会ピアノ部門高校生の部で優勝したときに弾いた曲は、「幻想ソナタ」だった。

釜石市出身の小井土文哉さんは3月、音楽大学で学ぶため、故郷をあとにした。3歳でピアノを始め、小中学校時代にはコンクールで上位入賞。東京の先生にも指導を仰ぎ、プロを志すことも考えた。迷った末に、将来は法律関係の仕事に就こうと、盛岡市の進学校を受験。震災に遭ったのは、高校入試の2日後だった。自宅の手前で津波は止まったが、家の前の道路はがれきで埋め尽くされ、見慣れた街は無残な姿となった。下宿住まいだったため充分な練習はできなかったが、高校生になってもピアノは続けていた。そして2年になる頃、自身の進む道を見直した。研修先のウィーンで

聴いた演奏に感動したこと、さらに被災地で支援活動を展開していた世界的な指揮者・佐渡裕さんの存在が後押しした。「音楽には人を癒やしたり、元気づけたりする力があるのだと思いましたが」という。一度きりの人生なのだからと、親もその意思を尊重してくれた。勉強と両立させながら、大学を目指して週1回、宮城県仙台市の先生のもとに通った。地元の人たちから、パワーをもらっていると話す小井土さん。「演奏を聴いた人に、また聴きたいと思ってもらえるような、心に訴える演奏ができるピアニスト」となつて、釜石で演奏したい。その夢は始まったばかりだ。

ピアニストを目指す

小井土文哉さん

音楽には力がある
だから、この道を歩みます

